

小1 女児殺害3年で父親が心境「悔しさや憎しみ今も」

広島市で小学1年木下あいりちゃん＝当時(7)＝が殺害された事件が22日で3年を迎えるのを前に、父親の建一さん(41)が20日までに共同通信の取材に応じ「(時の流れを)非常に早く感じるが、悔しさや憎しみは変わらない」などと、今も癒やされない思いを語った。

小学2年に成長した弟(7)を見て「あいりは4年生か。どれくらい大きくなっていったのかな」と想像してしまう。あの事件さえなければ、今も仲良く姉弟で遊んでいるはずなのに。「残念だし、悔しい」

「あいりをどう誘い、なぜ彼女だったのか」。真実を知りたい一心で、遺影を抱いて傍聴してきた裁判も、来月9日に2回目の判決を迎える。ホセ・マヌエル・トレス・ヤギ被告(36)は「悪魔に支配された」と繰り返し、納得できる答えはついに得られなかった。

意見陳述で極刑を求めた建一さんだが、「たとえ合法的でも彼の命を奪うことになれば、わたしのせいかもしれない」と、胸中で葛藤があるという。「本来はあいりの命と同じ価値のはず」。それを証明するため、被告が心から反省し、罪を償うよう願っている。



事件当日あいりちゃんを持っていたノートや筆箱などの学用品＝広島県海田町

2008/11/20 16:36 【共同通信】